

報告

平成18年度 北海道防災総合訓練

毎年、各支庁持ち回りにより実施している「北海道防災総合訓練」が、今年度は8月3日（木）、日高支庁管内浦河町で開催された。

本訓練は、北海道防災会議が主唱し、開催地域の災害対策連絡協議会と自治体が実施主体となり、北海道開発局、北海道運輸局、第一管区海上保安本部をはじめ24機関、また、陸上自衛隊北部方面隊、海上自衛隊大湊地方隊、航空自衛隊北部航空方面隊の3機関が協力機関として参画している。

訓練の目的は、大規模災害を想定して災害予防責任者が共同し、地域住民と一体となり、災害時における防災活動を円滑に行うため、情報伝達や応急対策など各種の訓練を実施し、技能の向上と地域住民の防災知識の普及・啓発を図ることにある。

当日は快晴の中、午後0時30分、開会が宣言され、北海道防災会議会長の高橋知事代理として山本副知事より挨拶があり、22機関、約600名が参加し、訓練が行われた。

当会は、北海道防災会議参画機関として飯塚会長が本訓練の副統監に指名されている。当日は、救急医療部長の目黒常任理事が副統監代理として参加した。

会場には移動大型ビジョンが設置され、小型無人ヘリコプターに搭載されたカメラによる上空からの映像や各訓練の状況が放映された。

地震・津波災害訓練は、地震により浦河町など日高管内の広い範囲で大きな揺れを記録し、北海道太平洋沿岸中部に大津波警報が発表され、この地震・津波により家屋、公共施

設、交通機関、通信回線等に大きな被害が発生し、管内に多数の負傷者が出たことを想定し、地震・津波情報伝達、住民避難、医療救護等の25訓練が行われた。

また、大規模風水害訓練では、大型で強い台風の接近により、降り始めからの総雨量が多いところで400ミリに達する大雨と最大風速（平均風速）25メートルから30メートルの暴風により、日高地方の広い範囲で河川の氾濫、高潮、低地の浸水、道路の破損及び崖崩れ等の被害が発生したことを想定し、気象情報伝達訓練、河川情報収集伝達、倒壊家屋救出等の6訓練が実施された。

当日、地元の日高医師会は、日高歯科医師会および日本赤十字社北海道支部・浦河赤十字病院と医療救護訓練を担当した。西田日高医師会長は自ら救急現場へ出動して負傷者の診断を行うとともに、救護所内で患者をトリアージし、後方病院への救急車による患者搬送指示等を行った。

最後に谷川浦河町長より講評がなされ、訓練本部長である細越日高支庁長から本訓練の閉会が宣言され、全日程を終了した。

—救急医療部—



負傷者の診断



小型無人ヘリコプター